

## 大学進学対策について

高校教育課

## 1 平成26年度大学入試センター試験について

## (1) 概要

- ア 日時 平成26年1月18日(土)、19日(日)  
 イ 会場 県内5会場 福井大学 文京キャンパス、松岡キャンパス  
 福井県立大学 福井キャンパス、小浜キャンパス  
 福井工業大学  
 ウ 受験者数 3,152名(県立 2,655名 私立 497名)

## (2) 自己採点結果

大学入試センター発表によると、主要科目の平均点では、昨年と比べて「数学ⅠA」「世界史B」「地理B」「化学Ⅰ」などで5点以上上昇、「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」「国語」などは難化、他の科目の平均点はいずれも6割程度。

文系の生徒は、理系と比べ、選択している科目の平均点が低いため、全国的に得点分布が狭く、二次試験勝負になる傾向が高い。

福井県の受験生について、受験業者の結果によれば、英語筆記、リスニング、国語については、全国のトップレベル

- ・文系の生徒の平均点は伸び悩み。
- ・理系については難関大を志望している上位層を中心に得点を伸ばしている。

## (3) 問題の分析

センター試験終了後、各教科5、6名の教員、指導主事がすぐに問題を解いて、問題の難易度や出題内容等について、分析

	平成26年度	平成25年度	H26-H25
国語	98.7	101.0	▲ 2.4
数学Ⅰ・数学A	62.1	51.2	10.9
数学Ⅱ・数学B	54.0	55.6	▲ 1.6
英語 筆記	118.9	119.2	▲ 0.3
英語 リスニン	33.2	31.5	1.8
世界史B	68.4	62.4	6.0
日本史B	66.3	62.1	4.2
地理B	69.7	61.9	7.8
倫理	60.9	58.8	2.1
政治経済	53.9	55.5	▲ 1.6
現代社会	58.3	60.5	▲ 2.2
倫理・政経	67.3	60.7	6.6
物理Ⅰ	61.6	62.7	▲ 1.1
化学Ⅰ	69.4	63.7	5.8
生物Ⅰ	53.3	61.3	▲ 8.1
地学Ⅰ	50.2	68.7	▲ 18.5

H26については、中間集計

## ○各教科の分析結果

## 国語(80分 200点)

現代文については、評論は去年の小林秀雄の文章よりも読みやすい。分量は小説で去年の約4000字から約5200字と大幅に増加。古典については、古文に難度の高い源氏物語、漢文も訓点のない白文の箇所が問われるなど難化

福井県の生徒は、授業において、長い文章を早く読む学習を進めていることにより、平均点は全国平均よりも高い。全国平均点は、センター試験開始以降、最も低い点数となったが、福井県の生徒の平均点は全国の平均点と比べて5点以上高かった。

## 数学(60分 100点 2科目受験が基本)

分量、出題形式とも例年通りで適当である。グラフや図形が与えられていないので、問題文を正確に読み取って必要なグラフや図形をかける力が必要。

福井県の生徒については、特に数学ⅡBにおいて計算量が多いため、早く正確に計算できるように学習する必要がある。数学ⅠA、ⅡBとも全国平均をやや下回っている。

## 英語(80分 200点)

文章も設問も標準レベルの英語で構成、受験者にとって取り組みやすい問題が多い。使用されている語数は昨年度よりやや増加したが、混乱することはなかった。授業では比較的易しめの英文を使用しながら、英文のメッセージを速く正確に読みとることがますます求められることになる。

福井県の生徒は、英語筆記、リスニングとも、平均点は、全国平均より高く、特にリスニングは全国トップクラスの平均点であった。

## 地歴、公民（60分 100点 文系2科目、理系1科目受験が基本）

現代社会、政治・経済以外の5科目において、昨年より易化した。日本史Bや世界史Bでは近現代史の増加、地理においては教科書の範囲以外から出題された。世界史Bにおいては、文章空欄の語句組み合わせが増加したため、知識重視の傾向が強まった。日本史B、地理Bでは、多彩な資料が用いられ、正確な時期判断を求める問題が出題。福井県の生徒の平均点は、日本史Bを除いて、全国平均よりやや低い。

## 理科（60分 100点 文系1科目、理系2科目受験が基本）

実験・観察をもとに、データを分析し考察する出題を重視する傾向が継続、生物ではページ数が大幅に増加したほか、物理「立ち木への落雷」や化学「数種の有機化合物の物質を特定する」などの問題においては教科書では見慣れない図や設定が見られた。福井県の生徒の平均点は、物理I、地学Iで全国平均を上回っている。授業や問題演習では、過去の同様な問題を取り組ませて解説するなどの配慮が必要

## 2 今後の大学入試について

### (1) 日程

- ・ 1月27日（月）～2月5日（水） 国公立大学個別試験出願
- ・ 2月25日（火）～ 国公立大学前期試験
- ・ 3月12日（水）～ 国公立大学後期試験
- ・ 1月下旬～3月下旬 私立大学一般入試

関西地区：1月下旬～2月上旬、関東地区：2月中旬

### (2) 個別試験対策

#### ア 記述試験指導

- ・ 午前中は、3年生用に特別時間割を組み、1教科100分で2時間の特別講義
- ・ 受験大学別、入試のレベル別に生徒を集め、過去の大学入試問題や他校の入試問題を使って、演習・解説を行う。  
【例】英語10講座：東大・一橋大、京大、阪大、名古屋大・神戸大、医歯薬系中堅理系、中堅文系、金沢大学、福井大学、県立大学
- ・ 中規模校の難関大学対策では、受験人数が少ないために、個別に生徒一人に4教科の教員がはりつき、集中的に指導する場合もある。
- ・ 午後は、弱点補強の特別講義をする学校もあれば、生徒の自学や教員への質問などの生徒の個別対応にあてる場合もある。学校の状況による。
- ・ 英作文の添削指導においては、英語教員とALT二人で行う場合もある。

#### イ 小論文・面接試験対策

- ・ 受験大学の分野に応じて、全教員で生徒一人ひとりに対して、10～20回程度の添削個別指導を実施

## 3 来年度の進学対策

今年度のセンター試験の出題傾向や内容、難易度および生徒の間違いやすい問題などの分析を踏まえ、受験指導について、各学校が行う生徒への聞き取りや自校の自己採点の結果も集計し、次年度に向けて改善策を検討し、周知する。